

令和2年2月3日

開進三中だより

< 第10号 >

—◆たかましい人◆考える人◆心豊かな人◆助け合う人— 練馬区立開進第三中学校

「自分で考え行動する」

校長 岩尾 幸市

1月に様々なスポーツ大会が開催されました。その中で箱根駅伝で2年ぶり5度目の優勝を果たした青山学院大学陸上競技部（長距離ブロック）の強さについて考えてみました。

2004年に現監督の原晋さんが就任しました。就任から10年はチームづくりに相当な苦労があったそうです。その当時の学生には、規則正しい生活をする習慣や目標を立て計画的に走力を伸ばしていく方法がなかったそうです。原監督は結果を求めるあまり3年目に大きな失敗をしたそうです。力のある選手をスカウトしましたが、その選手は入学後に自分勝手な振る舞いをしたためチームはまとまりがなくなりバラバラになっていったそうです。その後その選手は退部しました。チームづくりには時間がかかることを痛感したそうです。

原監督は原点に戻り、強いチームをつくるためには、まず「陸上競技を通して、人間性を磨き社会で活躍できる人」の育成が第一であると考えました。人として成長するために、目を向けるべきは「当たり前なこと」をしっかりとできる人やそのためのチームづくりから始めたそうです。部としての土台がしっかりできたところで選手の「自主性」を重視するチームづくりを進めていきました。

学生スポーツ界では、伝統を重んじOBや指導者からのトップダウンの傾向があります。チームの基礎をつくる時期には有効ですがこれ一辺倒では大きな成長は見込めません。社会の成熟に伴って、新しいトレーニングやマネージメント方法を取り入れ、学生自身が考え自主性を重視するチームが増えてきました。自主性を育成する上で最も大切なことは、部員一人一人が「自己の成長を目指し切磋琢磨できるチーム」をつくりたいという思いをもち、4年生をリーダーとして下級生を含めた部員が積極的に話し合うこと、時には激しいやりとりもあると思いますが、大会に出場できない者を含め全員で勝利を目指すことです。学生スポーツ界でここ10数年で好成績を残しているチームはそのようなチームです。

生徒の皆さんは、誰かに指示をされて動くのではなく、自ら考え決定し行動することを大事にしていますか？ 困難に直面したとき、戸惑い考え込むことがあったとしても、そこから逃げることなく工夫し挑戦し課題に向き合う力が必要とされます。常に誰かの支援を必要とした段階は終わり、中学生として「自立」に向けて力強い歩みを続けることです。日々の生活の中でさまざまな課題を試行錯誤しながら仲間と支え合いながら「課題に向き合い、乗り越えていく力」を身に付けてほしいと思います。

親子百人一首大会



1月17日（金）1年生は体育館において第37回親子百人一首大会（主催：練馬区青少年育成桜台地区委員会後援：PTA1学年学委員会）を行いました。11日（土）のリハーサルからさらに練習を重ね寒さを感じさせない熱戦になりました。優勝は1年1組、準優勝は1年3組でした。おめでとうございます。

また主催していただいた地区委員の皆様、PTAの皆様、そして参加、観戦してくださった保護者の皆様、ありがとうございました。



むつのを和楽器授業



1月27日（月）1年生は和楽器オーケストラ「むつのを」の方3名を講師に迎え和楽器の体験授業を行いました。

生徒は「さくらさくら」を箏で練習しました。各自が集中して取り組み1時間の授業の中で、通して「さくらさくら」の演奏ができるよ

うになりました。

また尺八と箏による「春の海」の演奏が披露されました。柔らかい箏の伴奏にピンと張り詰めた尺八の音色に生徒たちは引きつけられました。



UAE生徒が来校します

2月10日（月）にアラブ首長国連邦（UAE）の UAE Gams millennium school の生徒19名が来校します。

13時に到着、5、6校時の時間を利用し、1、2年生との英語活動、書道体験を行います。そのあと体育館でソーランクラブの演舞を鑑賞する予定です。

お時間のある方は、是非ご来校いただきご参観してください。